



# 土壌消毒を活用し、 土壌病害虫被害を軽減しましょう

同じ作物を同じほ場で続けて栽培すると、連作障害により収量や品質の低下がみられることがあります。その原因の一つは、特定の土壌病害虫が増加することにあります。輪作などの耕種的防除で増やさない対策はできませんが、一度被害が増えたとかなかなか元には戻らないため、土壌消毒による対策が必要になります。

土壌病害虫の発生が多くみられるほ場では、土壌消毒を実施し、被害の軽減を図りましょう。

## 1 土壌消毒とは

土壌消毒とは土壌中の病原菌や害虫を駆除する消毒で、薬剤による消毒のほか、太陽熱や蒸気など熱を利用する消毒、また土壌還元消毒などいろいろな方法があります。

その中で、効果の安定性や処理する季節、必要装備、コスト等から、薬剤

による消毒が広く行われています。

## 2 土壌消毒剤の種類

土壌消毒剤の種類によって、適用病害虫が異なるため、発生状況に合った薬剤を選択しましょう。(表参照)

## 3 ダゾメット粉粒剤(ガスタード微粒剤等)の使用上の留意点

① 適用内容に沿った使用薬量の均一散布及び混和  
同じ作物でも対象病害虫によって、使用薬量が異なる場合があります。

② 適正な土壌水分の確保  
土を握って、崩れない程度の土壌水分が必要で、土壌水分の極端な過剰や不足は、成分の分解が遅れ、薬害の恐れがあるため注意しましょう。

③ 被覆の実施  
被覆をしないと薬剤の活性成分が土壌表面から揮散し、十分な効果が得られません。

表 主な土壌消毒剤

商品名	農薬の種類 (有効成分濃度)	適用病害虫			
		細菌	糸状菌(カビ)	線虫	土壌昆虫
クロールピクリン	クロールピクリンくん蒸剤 (99.5%)	○	○	○	○
ドロクロール クロピク80		○	○	○	○
ガスタード微粒剤	ダゾメット粉粒剤 (98%)	○	○	○	○
ソイリン ダブルストッパー	クロールピクリン・D-Dくん蒸剤 (41.5%・54.5%)	○	○	○	○
		○	○	○	○
D-D	D-D剤 (97%)	△	△	○	○

※○：適用あり、△：一部作物(ばれいしょ)のみ適用あり

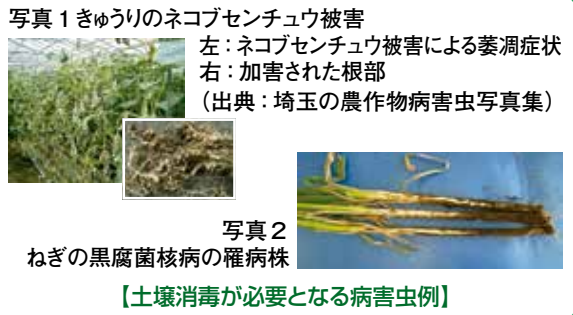
土壌消毒を行う際は、ガス化した成分が周辺の人畜等に影響を与えないよう、注意してください。

## ④ 罹病残渣の適正処理

罹病残渣ごと処理すると病原菌等が植物組織中に残り、十分な効果が得られません。処理前に罹病残渣は除去するか、十分に腐熟させましょう。

## ⑤ 再汚染への注意

土壌消毒を行った後、病気等に汚染された土壌や資材、苗などを持ちこむと、かえって病害等被害が激しくなる場合があるので注意しましょう。



農薬を使用する際は、必ず使用農薬のラベルを確認し、使用基準を守るとともに、周辺作物への飛散防止に努めましょう。

（大里農林振興センター 農業支援部）